

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
だれかれが皆知り合ひて夏祭		末つ子をまん中にして盆休み	B面の意地や弾くる鳳仙花		三つ編の少女の笑顔鳳仙花		復元のライトの椅子の影涼し	鳳仙花小蟹埋めしところより	昼飯は日々まちまちの蟬時雨

清記用紙(番号乙)

(服部梅句)写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
			黙禱のサイレン 朱夏の甲子園	Ｔシャツのカレーのしみや 鳳仙花	虫籠を斜に掛け網を振る キッズ		トウキビを挽いて世貞いて感謝して	冷奴 割引シールの心地好さ	ダンス果て無人の舞台 鳳仙花

1	伏し目なる青児の少女晩夏光
2	カツとなる女心や鳳仙花
3	終戦日あの日もたしがざるづどん
4	はじけとぶ雨のやういのほつせんか
5	涼風や王雷神社へ呼ばれ着き
6	ひるねさめ
7	昼寝覚めたしの形古しあめる
8	
9	
10	

清記用紙(番号 4)

(米田よし) 写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
			ナカサキの夾竹桃の真昼かな	夏木立仮面の女神茅野の里	それぞれがここに住まじと鳳仙花	ないしよたよ友の告白鳳仙花	星涼し区画の端の精米所	蟬しぐれ妻再入院の日となりぬ	団扇持ち粋な男や女やと

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
黙 ^{...} 禱の長き祈りや蟬時雨	起き抜けの洗濯夏の絶頂期	日盛の露地極楽の余り風		飛び乗るを待ちて出発秋立ちぬ		南国の山河に張りのある夕立	背丈越す夏草の山休耕田	瀬を凍み罫に白鮓 しらほえ 水尾立ちぬ	

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
塩醬油控える暮らし鳳仙花		汗だくの配達員の走り来る	かなかなの高音森林に透けし		大花火戒厳令の夜を裂く	電話口母笑はせて今朝の秋		アベリアのわずかに揺れて羽の音	書物干し書架改むる風の道

清記用紙(番号7)

(鮫島しょうん) 写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
			砂日傘 彼女に影を多く遺り	日傘からはみ出す赤のランドセル	観光バス降りて連山涼新た	本州を大きく移動 夏の旅	敗戦忌 門司港駅のゼロマイル	鳳仙花 田んぼの横で咲き満ちて	滝雲に打たれて涼し 馬 ^{うまのせ} 越 ^こ

1	妻の手が遮る二杯めのビール
2	興福寺浴衣姿の異邦人
3	一族の遺影見つめし夏座敷
4	
5	秋暑しどうにもならぬ御堂々筋
6	弱虫の遠い故郷りんご園
7	山伏の護摩木焚くほど暑さかな
8	風鈴の身じろぎもせず午後六時
9	
10	

清記用紙（番号 9）

（福田光弥）写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	「ありがと」湖上に返す花火かな	お隣りの雨戸が開きて隣暑帰り		絵日記を逆りつつ鳳仙花	滴りを口に含みし磨山崖仏	どつどつど腹の子動く盆踊		蟬時雨叩きつけては畳に掛け	恋歌を止めれば遠し蟬の声

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
		如 ^如 早 ^早 といふ鳴物入りの指相撲	因 ^因 鮎 ^鮎 己の石をさかしけり		鎮 ^鎮 守 ^守 社 ^社 や今も涼しき ^涼 棕 ^棕 の洞 ^洞	ひまわりの畑の迷路の阿鼻叫喚		奈良町に団扇を翫 ^翫 て風選 ^選 ひ	肌脱ぎの老爺の背中の般若かな

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
		京都駅經由土産は柿の葉寿司	衝動のまま突を突つく鳳仙花		天草に悲しき伝聞長崎忌	入院にママ行きにケリ鳳仙花		肉店のラストソングや明易し	触れなくて私の髪に鳳仙花

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
薫り立つ一夜孤高の月下美人		十一時二分ペン置く長崎忌		夏暖簾くぐるうなじの美しさ		立秋の南座よこのたこ焼屋		浴衣着て占い学ぶ母娘かな		鳳仙花遊びごころは衰へず
								ゆかた		
								ははこ		

清記用紙(番号13)

(近藤和卓) 写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
母愛でし紅きフリルや鳳仙花	大仏の頬のてかりや晩夏光		終戦日今も弔ふ墓はなし		靴ひもの交差乱れる長崎忌		天守には宮本武蔵夏のあけ	日に焼けた写真にふたり鳳仙花	農婦にも乳房 ちぶさ のふたつ鳳仙花

1	身に過ぎし得物引 ^ひ 提 ^さ げよろり蟻
2	ジビエ肉類張 ^は りいざと登 ^{のぼ} る
3	
4	すぐ湯く愛 ^{あい} ならありて大蘇鉄
5	しールム・ノヴァルム人 ^{ひと} 新 ^{いとしんせい} 世の夏
6	
7	馬草の稜 ^{りやう} 線に落 ^お つ紅茨 ^{こうし} レ
8	夏は夏らしく心身晒 ^あ すのみ
9	店先は金魚すくい ^{めいじんふた} の名人 ^{めいじん} 札
10	

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
		夏の家縦横無尽やるせなし	夏蝶を目だけて追うていふライオン	ふるさとの蘭草の香る枕かな	火火昼や下水の底に丸い空	遠つ世へ秋の初風 戎橋 はなすけ	助手席に残るシート原爆 己心	滝の音頼りに登る獣道	雨後の庭溜りし水に夏の蝶

清記用紙(番号 16)

(真一) 写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	誰 住 手 ね 実 家 の 庭 に 鳳 仙 花	稜 線 の 小 径 よ り 暮 る る 鳳 仙 花		い ま 生 き る 事 の 幸 せ 鳳 仙 花	夕 暮 れ の 朱 雀 大 路 に 雷 雨 が な		昭 和 史 の 破 片 利 々 り し ま ま の 夏	長 崎 忌 二 畳 一 間 の マ リ ア 像	園 庭 に 燥 ぐ 声 な く 鳳 仙 花

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
			若き日の夢はいずこや 鳳仙花	原爆忌まだ降り止まぬ 黒い雨	謗本に思はぬ事実 鳳仙花	ピンポンパン 鳳仙花の種烈しく かり	一休寺虎の屏風の 前涼し	港にて木槿とともに 娘待つ	千代子だないや みゆきだと 鳳仙花

1	真昼間は蝉も一時鳴き休む
2	祭壇の真澄の鏡秋に入る
3	四十年爪紅高く妣の家
4	
5	同僚の机へ檸檬ひとつずつ
6	瞬きはカールの底へ早星
7	家じゅうに風を走らせ盆の入
8	夕焼けの霞羽りてロックフェスは佳境
9	武張りたる明治の祖父の月見草
10	ほうせんか昭和約しき頃の庭

清記用紙(番号 19)

(しやほん) 写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
				もう十年 ^{せうじふ} と決めて鰻 ^{うなぎ} 食 ^く か	ほうせんか三角 ^{さんかく} 野球 ^{やきゅう} の騒 ^{さわ} かし	せかむ子の肌 ^{はだ} の近 ^き さや氷 ^{こおり} 水 ^{みづ}	解体 ^{かいたい} の重機 ^{じゅうき} の横 ^{よこ} や鳳仙 ^{ほうせん} 花 ^{はな}	避暑 ^{ひしょく} 地 ^ち みりレイキヤビク ^{レイキヤビク} てい ^{てい} 比 ^ひ の果 ^は て	刀豆 ^{たうずめ} やスパイの如 ^{ごと} く合 ^あ 話 ^わ する

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
山 やま サ さ 爾 に や戸 と 棚 たな の奥 おく の処 ところ 方 かた 婆 は 女 を	土 つち かべの山 やま 朋 とも れしところ馬 うま 仙 せん 花 はな		爪 つめ 紅 こう や船 ふね 場 ば のほ ほ んに見 み 初 はじ めらる		弱 よわ 虫 むし の心 こころ やさしき夜 よ 明 あけ けかな		火 ひ の国 くに を切り裂 きり く地震 じしん 酷暑 こくしゅ なほ		今年 ことし また八月 はつがつ 八日 ようか ご朱 しよ 印 いん 日 にち

清記用紙(番号21)

(所考) 写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
師を送る校歌の響き 秋の野に		ユニホーム真白き ままに晩夏光		広島心お好み 村のソースの香		たどたどしひらがな 並ぶ星祭	終戦日あの日も 同じ爽々桃 きょうちくとう		蝉時雨土砂降り ほどの社かな

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	父の志や鳳仙花店口の壺へ	明く頃や朝蟬が友賞めごころ	夏座敷砦を打つ音の遠かりき	子の辞書の「性」の黒ずみ鳳仙花		尖 ^{つま} は葉に譲り日陰の指相撲	鳳仙花母五十年闘病中	鳳仙花障子一枚閉め残す	